

症例 1

歯周病による前歯の前突(出っ歯)を歯周外科処置と審美補綴治療で歯を抜かずに治した症例

57才男性 残存歯  $\frac{6}{6} \frac{8}{31-47}$

歯周病が進行して前歯が揺れており、前突している。歯牙動揺は、上の中切歯  $\frac{1}{1}$  が3.0mm、側切歯  $\frac{2}{2}$  が2.5mmで歯肉の出血、腫れ、口臭とも著しいが保存可能と診断。

顎関節症状はないので、臼歯はこのままの咬み合わせで前歯治療を行うことにしました。

上の犬歯  $\frac{3}{3}$  の動揺度が0のため、徹底的な歯周外科処置と  $\frac{3}{3}$  による  $\frac{2}{2} \frac{1}{1} \frac{2}{2}$  動揺固定治療  $\frac{3}{3} \frac{2}{2} \frac{1}{1} \frac{2}{2} \frac{3}{3}$  連結冠に着手します。

その際、前歯の歯並びも同時に治し、審美面の回復も計る。

最初に歯肉整形を行い前歯6本  $\frac{3}{3} \frac{2}{2} \frac{1}{1} \frac{2}{2} \frac{3}{3}$  の歯肉ラインをそろえます。

歯が伸びて前突して揺れている  $\frac{1}{1}$  を内側(口蓋列)方向に歯軸を変え、かつ歯牙形態も整った仮歯を作る。

$\frac{2}{2}$  は矮小歯(たけが低く小さい歯)であるため、本来の大きさの歯の形にした仮歯を作る。

$\frac{3}{3} \frac{2}{2} \frac{1}{1} \frac{2}{2} \frac{3}{3}$  が左右対称になり、歯と歯の間のすきまもなくなり、歯肉ラインもそろった  $\frac{3}{3} \frac{2}{2} \frac{1}{1} \frac{2}{2} \frac{3}{3}$  仮歯を装着。

患者様の御満足できる形態になるよう微調整を行った後、型を取って最終補綴物(このケースはセラミックによる  $\frac{3}{3} \frac{2}{2} \frac{1}{1} \frac{2}{2} \frac{3}{3}$  連結冠)を装着。

治療後は歯肉の出血、腫れ、口臭も消失。歯間のすきまもなくなり、前歯4本  $\frac{2}{2} \frac{1}{1} \frac{2}{2}$  の歯の揺れも0mmになったため、力いっぱい咬み切れるように回復。

(Dr.へ) 仮歯と最終補綴物の歯冠長、歯冠幅、傾斜を同じにするため、仮歯の唇面コアだけでなく、顎路角情報の入った舌面コアも取ってWax upを作製する。Waxは口腔内試適できるもの(ProArtのWax)を使用して口腔内で、Wax.trialを行い、さらに精度の高いWax upを完成させて最終補綴物の作成に着手する。